

大腸がん検診結果通知書

氏 名		住民登録番号		- 1(2)*****	
区分	検 査 項 目 (検診日)			結 果	判定 ※ 判定区分に基づいて判定基準を そのまま記入
大 腸 が ん	検査名 (年 月 日) ※ 最大3種(便潜血検査、 大腸二重造影検査、 大腸内視鏡検査)	所 見 (病変位置) ※ 便潜血検査のみ行った場合の所見(病変位置無し) ※ 判読所見に基づいて括弧内に病変位置を記入			
		組 織 診 断 ※ 組織診断を行わなかった場合は削除			
	勧 告 事 項				
	判定日	年 月 日	判定医師	免許番号	
				医師氏名	(署名)

大腸がん検診結果通知書	
<p>※ (健康保険加入者) 健康診断の結果通知書に上級の総合病院での療養給与が必要との医師の所見が記載された場合、療養給与依頼書(診療依頼書)に代えることができ、本通知書を活用して上級の総合病院で診療を受けることができます。</p> <p>※ (医療給与受給権者) 健康診断の結果、異常所見があり、診療担当医師が検診結果書に追加診療が必要だという医師所見を記載した場合は、同検診結果書をもって医療給与依頼書の代用とし、検診を行った医療給与機関にて診療を受けられます。それ以外で医療給与が必要な場合は「医療給与法施行規則」第3条の医療給与手続に従って診療を受けなければならず、選択医療給与機関適用対象者は本人が選択した医療給与機関にてまず診療を受けなければなりません。</p> <p>※ 最近発病率が急激に増加している大腸がんは、定期的な検診による早期発見が可能であり、早期発見された場合は、内視鏡治療、または手術治療で完治できます。</p> <p>※ 大腸がんは50歳以上になると発病率が急激に増加しますので、特に症状が無い場合も50歳以上の方は男女を問わず便潜血検査を毎年受けることをお勧めしております。便潜血検査で異常が発見された際には、翌年度1月31日までに大腸内視鏡検査または大腸二重造影検査で大腸がんの発生有無を確認することができます。</p> <p>※ 大腸がん算定特例者及び「がん検診実施基準」に基づいて大腸内視鏡検査を受けた受検者は、大腸がん健診を猶予することができます。</p> <p>※ 便潜血検査だけでは全ての大腸疾患を判別することができないので、便潜血検査が陰性であってもおかしい症状(体重低下、大便の太さの変化、血便など)があれば医師と相談する必要があり、検査で異常所見無し以外の判定を受けた場合は勧告事項に従い措置をお取りください。</p> <p>※ 大腸がんと診断された人の中で関連する要件(健康保険料、国家がん検診受検の有無など)を満たす人は、「がん患者医療費支援事業」の対象となることができます。(詳細については、管轄の保健所にお問い合わせください。)</p> <p>あなたの大腸がん検診結果を以上のように通知します。</p> <p>年 月 日</p> <p>療養機関記号 検診機関名</p>	

※ がん検診結果通知書は別添のがん検診結果記録紙に基づいて検査項目に応じてアレンジして作成